

## <訪問教育目標>

### ○重点目標

- ①一人一人の持てる力を最大限に引き出しながら、児童生徒が生き生きと学習に取り組めるよう、個に応じた指導の充実に努める。
- ②様々な人との関わりや体験を通して、児童生徒の豊かな生活の広がりや心身の安定を目指す。
- ③保護者や関係機関（施設・医療等）との連携を深め、教育の充実に努める。

### ○具体的方策

#### 重点目標①に対して

- ・一人一人の教育的ニーズを把握し、病状や体調、発達段階や生活年齢、生活環境に応じた指導内容や手立て、教材・教具の工夫に努める。
- ・重度重複障害のある児童生徒にとっての「主体的・対話的で深い学び」を実現できるよう、「訪問教育の手引き」を活用し、教科学習や自立活動等の実践を通して授業改善に努める。

#### 重点目標②に対して

- ・学校行事、スクーリング、校外学習、交流及び共同学習、遠隔通信による交流等、効果的な集団の場や活動を設定する。
- ・自分の気持ちや意思の表出、外界への主体的なかわりができるようになるため、身近な人とのやり取りの場を積極的に設けたり、ICT・AT機器を活用したりして、学習の充実に努める。

#### 重点目標③に対して

- ・保護者面談や訓練見学、合同評価会において、個別の教育支援計画を活用しながら目標や課題を整理し、より効果的な指導を行う。
- ・訪問教育通信や掲示、ホームページ等で、学習や行事等の様子を発信する。